

2021年度一般選抜(TEAPスコア利用型) 記述式問題 解答

科目:2月3日 TEAP世界史

設問 2	もともと綿織物製品は、インドからイギリスへと大量に輸出されていたが、産業革命によってイギリスで綿織物の大量生産が可能になると、インドは織物生産が抑制され、原材料の綿花を生産する立場に転落した。アメリカ南部でもプランテーション化が進み、綿花栽培は盛んであったが、南北戦争によって綿花は高騰し国際的な争奪戦となった。ロシアは供給不足となった綿花を生産するため、トルキスタンの灌漑整備を進めた。
---------	--

設問 3	時には武力闘争によって、可能な限りの自立的な立場になることをめざした。この地域の諸勢力は、19世紀後半期までに、最終的にはロシアの支配下に置かれることになったが、カフカースのシャミールのように、クリミア戦争やその前後の英露などの列強間の対立構造を巧みに利用し、独立した勢力としてこれらの列強と渡り合ったものもいた。クリミア戦争以降、ユーラシア内陸部とりわけトルキスタンにおいて、英露の進出がさらに積極的になり、両国の対立も激しくなった。その結果、この地域の諸勢力の多くも英露の対立に組み込まれていった。ただし、アフガニスタンのように20世紀初頭に独立を勝ち得た国もあった。
---------	--